

第23回日本レジャー・レクリエーション学会 大会の開催にあたって

日本レジャー・レクリエーション学会

会長 浅田 隆夫

いつの大会であったか忘れましたが、私は『人間の身体は自然の自然性であり、身体の自然性は感覚ともいえる…人間は今日まで社会淘汰によってよりは、むしろ、自然淘汰の影響のもとに今日に至ったことを考えると、人間は社会よりは自然との共生をまず第一に考えなければならないし、それでこそ、身体わけても感性が自然に醸成されてくるのだと思う。今日のレクリエーション研究者はもちろん、人間すべてに期待されるユニークな見方や発想もこれを根拠にしている』といったようなことを述べたことがあります。

このことは、すべて人間の行動は、地球との共生の上に成り立っているということ、換言すれば、「人間の命」も「暮らし」も「環境」も地球との共生なしには不可能であるということです。

昨年の6月、12日間に亘り約4万人の参加者をブラジルのリオに集めて「地球サミット」が行われましたが、いま、私達は、人間と地球との対応について新しい「パラダイム」や新しい「システム」のリストラが大きな課題となっています。

このことは、早くも20年前（1972年のストックホルム会議）、マクナマラ（世界銀行総裁）が、次のような至言ともいえる言葉で警告を発しています。すなわち、「宇宙船地球号の乗船者は、いわばその1/4が一等船客（先進国）、3/4が三等船客（途上国）であり、両者の貧富の格差は甚だしい。両者の間に確然とした所得格差がある限り、この宇宙船内には反乱や紛争の絶えることはなく真の宇宙船の幸福は招来されない。したがって、人類の幸福のためには途上国の開発促進は不可欠である。ここに環境と開発のジレンマが生ずるが、これを解決する方法の決め手は環境破壊を未然に防止することである。しかも、それは事後対策よりもはるかに安上がりである」というようなことを述べています。

本学会が研究対象とする、レジャー・レクリエーション領域は生活文化に関わる分野だけに、よくその意味を体してことに当たることが望まれます。このような視点に立って、本年度のシンポジウムは『生態学的文明に向けて』（基調講演）とし、その下に「今日のレジャー・レクリエーションのあり方や実践的方法について」討議して頂くことになりました。多くの会員の方々の参加を心からお待ちしています。

日本レジャー・レクリエーション学会

第23回大会開催要領

1. 主催 日本レジャー・レクリエーション学会
2. 主観 日本レジャー・レクリエーション学会
第23回大会実行委員会
3. 日時 平成5年10月16日(土)・17日(日)
4. 会場 埼玉大学
〒338 埼玉県浦和市下大久保255
5. 日程 10月16日(土)
10:00～ 理事会
12:00～ 受付
13:00～ 基調講演
14:15～ シンポジウム
17:30～ 懇親会
10月17日(日)
9:00～ 受付
10:00～ 研究発表
13:30～ 総会
14:30～ 研究発表
6. 研究発表 レジャー・レクリエーション研究大会第23回大会
発表論文集として掲載

第23回日本レジャー・レクリエーション学会 大会本部企画

□大会テーマ

「自然に遊び、自然に学ぶ」

□基調講演

「生態学的文明に向けて」

—自然に学ぶレジャー・レクリエーション—

講 師 柴田 敏隆氏 (財)日本自然保護協会理事

□シンポジウム

テーマ「自然教育とレジャー・レクリエーション」

パネリスト

飯田 稔氏 筑波大学教授 (野外活動分野)

柴田敏隆氏 (財)日本自然保護協会理事 (自然博物教育分野)

瀬田信哉氏 (財)自然公園美化管理財団専務理事 (自然環境教育分野)

塚田弘一氏 山形県観光物産課主査 (ツーリズム分野)

司 会 油井 正昭氏 千葉大学

— 日本レジャー・レクリエーション学会第23回大会実行委員会 —

委員長 山市 孟

委 員 野沢 巖 金子 和正 永嶋 正信 寒川 恒夫

鈴木 秀雄 杉尾 邦江 柴田 丈 野村 一路

梅澤 佳子 坂口 正治 梅津 廻子 深山千穂子